

## 介護老人保健施設「コンフォート岡田」の沿革

介護老人保健施設「コンフォート岡田」は、1995年7月に長野市北長池に50床で開所されました。当時はまだ介護施設がそれほどなく、地元住民の方からの建設に対する反対の意見も多かった時代でしたが、前法人理事長の岡田啓治が地元住民ひとりひとりに、介護施設の必要性、介護施設とはどのようなものか、住民への安全面での配慮など、心を込めて粘り強く説明を繰り返し、建設承諾に至った経緯があります。

開所後は介護に疲弊した家族のレスパイトのために一時的な入所を勧めたり、フレイル状態にある高齢者のリハビリテーション目的に入所を勧めたり、今では当たり前になっている高齢者介護の在り方を先進的に取り入れ追求していきました。このような地道な活動により、地元住民も徐々に後援して下さるようになり、また入所希望の家族の要望も強かったため、2002年12月にベッド数を50床から150床に増床されました。

2005年11月には短期入所型48床を増床し、介護老人保健施設としては長野県内最大規模となる198床となりました。高齢化が進む中、脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症など認知機能障害を呈する疾患が増加したため、一部を認知症専門棟に転換し現在に至っています。循環器内科、糖尿病内科、消化器内科、精神科、外科、腫瘍内科など、多くの診療科の専門医が定期的に入所者を診察しています。また医師だけでなく、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、ケアマネジャー、管理栄養士など多くの職種が連携し入所者のケアを行っています。

2021年8月14日の線状降水帯による大雨では、2年前の台風19号での経験を活かし、あらかじめ準備しておいた避難スキームにより、当日入所していた189人の入所者を、ご自宅、災害時協定を結んでいる須坂市のグリーンアルム福祉会施設、西鶴賀にある法人グループ施設の特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅2棟、クリニックである岡田内科の計6グループに分けて、福祉車両や事前にチャーターした観光バスを使って避難しました。事故なく、けが人ゼロで無事に避難完了しました。